WAVIO AV SYSTEM

PCI DIGITAL AUDIO BOARD

SE-200PCI
インストールマニュアル

ご使用になる前に 2

オーディオボードの取り付け 8

ドライバのインストール 11

オーディオコントロールパネル (Audio Deck) の使い方 15

再生する 24

録音する 26

その他 28

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「インストールマニュアル」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

特長

先進のデジタル技術と高度なオーディオノウハウを融合して、徹底したノイズ低減を実現した画期的オーディオボード。新回路設計、新開発デジタル入出力端子装備、金メッキ端子採用など、圧倒的なサウンドパフォーマンスでこれからのデジタルオーディオ時代に対応します。

■ SN比115dB：徹底したノイズ低減を実現するVLSC回路を搭載
（2チャンネルライン出力専用端子）

■ オーディオ用部品の選択から配置まで徹底した高品位設計

■ VIA社ENVY24HTオーディオコントローラー採用

■ デジタル出力：最大24bit/192kHz
デジタル入力：最大24bit/96kHz

■ 高性能D/Aコンバーター・高性能クロック・オーディオ用コンデンサー・超大型電解コンデンサー・銅バスプレート採用など高級オーディオアンプなみの基板構成

■ 7.1チャンネル出力対応

■ A3D・EAXによる3Dサウンド対応

本製品をお使いいただくにあたり、下記注意事項をお読みいただき、正しくお使いください。

- 本書は、マウスやキーボードの使用方法など、Windowsの基本的な操作についてすでにご存知であることを前提に書かれています。
- 本製品を運用した結果の影響については一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、誤操作、不具合により生じた損害などの純粋経済損失については、その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、将来、予告なく変更されることがあります。
- 本書の一部または全部を無断で貸し出し、転載することは固くお断りします。
- WAVIO AV SYSTEMの名称およびロゴはオンキヨー株式会社の商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、Windows® XP、Windows® 2000 Professionalは、米国 Microsoft corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- 本書に記載されているハードウェアおよびソフトウェアの名称は、各社の商標もしくは登録商標です。

目次

特長 2
目次 3
安全上のご注意 4
製品構成
製品構成 6
必要なシステム構成 6
詳細な情報について 6
各部の名称と働き 7
マルチ入出力コードについて 7
オーディオボードの取り付け
BIOSの設定 8
オーディオボードの取り付け 9
接続する
オーディオ機器との接続例 10
ドライバのインストール
ドライバのインストール（Windows XPの場合） 11
デバイスドライバインストールの確認 14
オーディオデバイスの確認 14
オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使い方
オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の起動 15
オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使い方 15
デジタル入出力の設定をする（S/PDIFコントロールパネル） 16
マルチチャンネルスピーカーのボリュームを調整する（スピーカーパネル） 18
パソコンから出力される音声ボリュームを調整する（再生パネル） 19
外部機器と接続して録音を行う（録音パネル） 20
拡張設定を使用する（拡張設定パネル） 21
QSoundを使用する（サウンドエフェクトパネル） 22
システム情報を確認する（システム情報パネル） 23
再生のしかた
パソコンの音声をアンプ内蔵のPC用スピーカーで再生する（ライン出力） 24
パソコンの音声を5.1chデジタルホームシアターシステムで再生する 25
録音のしかた
外部入力をパソコンのハードディスクに録音する 26
故障かな?と思ったら 28
主な仕様 30
修理について 31
お客様ご相談窓口 31

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

⚠警告 誤った使い方をすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

⚠注意 誤った使い方をすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という 内容を表しています。

高温注意

感電注意

⃠ 記号は「～してはいけない」という 禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐにパソコンの電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにPC（パソコン）の電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

パソコンの設置に関するご注意

■ 水蒸気や水のかかる所に置かない、パソコンの上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

内部に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- パソコンの上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

使用上のご注意

■ 本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- PC（パソコン）の通風孔などから異物を入れない

■ 雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コードに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

⚠注意

取り付けに関するご注意

■ 本製品を取り付ける際は、必ずパソコンの電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

電源を入れたままでの取り付けは、故障や火災・感電の原因となります。

■ 本製品に触れるときは、縁や取り付けの金属部分を持つ

注意

故障の原因となりますので、ボード上の部品や端子部分には触れないでください。

接続に関するご注意

■ 配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

静電気に関するご注意

■ 本製品に触れるときは、必ず身体の静電気を取り除く

必ずする

PC（パソコン）のケース金属部分に触れて静電気を放出してください。金属製のスプーンなどを手にしっかり握り、スプーンの先で水道管に触るようにすれば、放電の衝撃を和らげることができます。

- 本製品は部品の帯電による故障防止の為、静電気防止袋で保護されています。装着の準備が整うまで、本製品を静電気防止袋から取り出さないでください。また、プラスチック、羊毛の繊維製品など静電気を発生しやすいものは遠ざけておいてください。

■機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をお勧めします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■本機のお手入れについて

- お手入れの際は、安全のため必ずPC(パソコン)の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

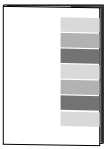
音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

製品構成

■ 製品構成

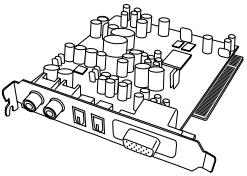
（ ）内の数字は数量を表しています



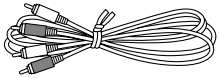
インストールマニュアル
（本書1）

保証書（1）

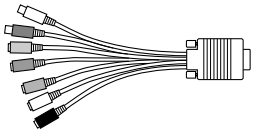
インストールCD-ROM（1）



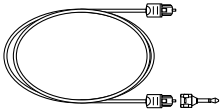
オーディオボード（1）



オーディオ用ピンコード（0.8 m）（1）



マルチ入出力コード（1）



光デジタルケーブル（1.0 m）（1）
ミニジャックアダプター（1）

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内（1）
ユーザーカード（1）

■ 必要なシステム構成

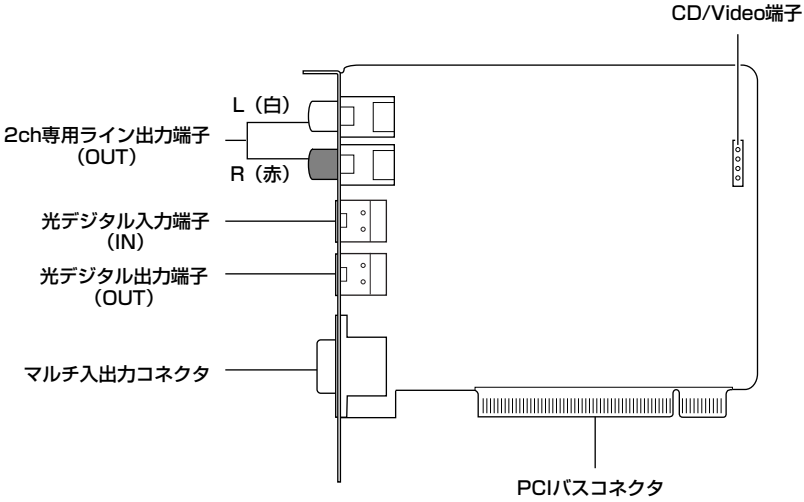
- Pentium® III 800MHz以上推奨
- 128MB以上のメモリー
- 40MB以上のHDD空き容量
- PCIバス空きスロット1つ（Ver. 2.1以上）を持つPC/AT互換機
- ソフトウェアインストール用のCD-ROMドライブ
- Windows® XP* SP 1またはSP1a以降日本語版、Windows® 2000* SP3以降
  * システム管理者権限（Administrator）でのみ使用可能です。

■ 詳細な情報について

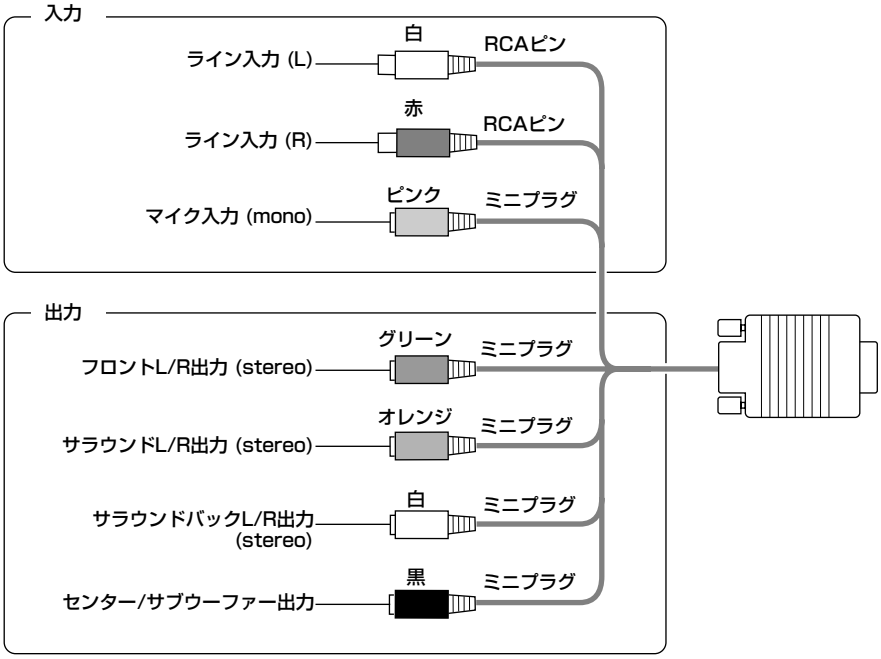
当社Webサイト（http://www.jp.onkyo.com/wavio/）には最新の情報や追加・変更情報が公開されていることがあります。作業を始める前に当社Webサイトをご確認頂くことをお勧めいたします。また、ドライバ等の更新もWebサイトにて行います。

製品構成

■ 各部の名称と働き



■ マルチ入出力コードについて



オーディオボードの取り付け

ご注意

オーディオボードの取り付けを始める前に、必ず「 安全上のご注意」の注意事項を確認してください（4～5ページ参照）。

■ BIOSの設定

PCによってはオーディオ機能をマザーボードに内蔵しているものがあり、そのままの状態では本製品が正しく動作しない場合があります。別紙の「取り扱い上のご注意」をご参照ください。
本製品を使用するには、BIOSセットアップユーティリティでマザーボードのオーディオ機能を無効にすることを推奨します。PCのオーディオ機能、BIOSセットアップユーティリティについては、PCに付属のマニュアル等をご確認ください。

1. PCの電源を入れます。
2. Windowsが起動する前に、BIOSセットアップユーティリティを起動します。
3. オーディオデバイスが有効になっていれば、無効に設定します。（ゲームポートとMIDIポートの設定項目があればそちらもあわせて無効に設定します。）
4. 設定を保存し、BIOSセットアップユーティリティを終了します。

オーディオボードの取り付け

■ オーディオボードの取り付け

1. PC（パーソナルコンピュータ）と周辺機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
2. PCのケース金属部分に触れ、身体の静電気を放出します。

   ご注意

   静電気の放出を行わないと、ボードやPC本体を破壊することがあります。

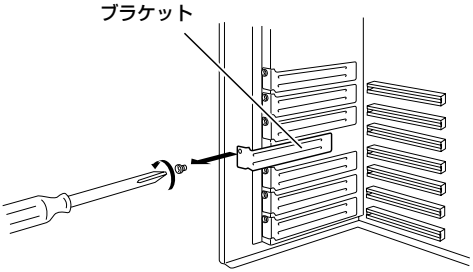
3. PCのケースをはずします。

   ♪ヒント

   ケースのはずし方は、お手持ちのPCの取扱説明書を参照してください。
4. PCIバス拡張スロットの位置を確認し、拡張スロットのブラケットを止めているネジをはずします。
5. ブラケットを取りはずします。はずしたブラケットは保管しておいてください。

   ご注意

   PC内部やボードには突起がありますので、けがをしないように注意してください。



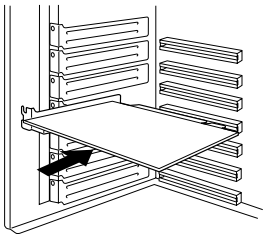
ご注意

ドライバーはネジにあったものをご使用ください。ネジにあわないドライバーを使用されますと、ネジを破損するおそれがあります。

♪ヒント

はずしたネジはボードの取り付けに使用しますので、なくさないでください。

6. メインボードの金属端子部分やピンを曲げないように注意してPCIバスコネクタにまっすぐに挿入します。



ご注意

この時メインボードが拡張スロットにしっかり挿入、固定されているか必ずご確認ください。
正しく挿入されていないと、認識できなかったり誤動作の原因となる場合があります。

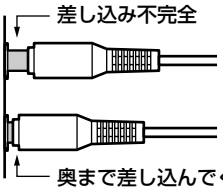
7. 手順4で取りはずしたネジでメインボードを拡張スロットに固定します。

接続する

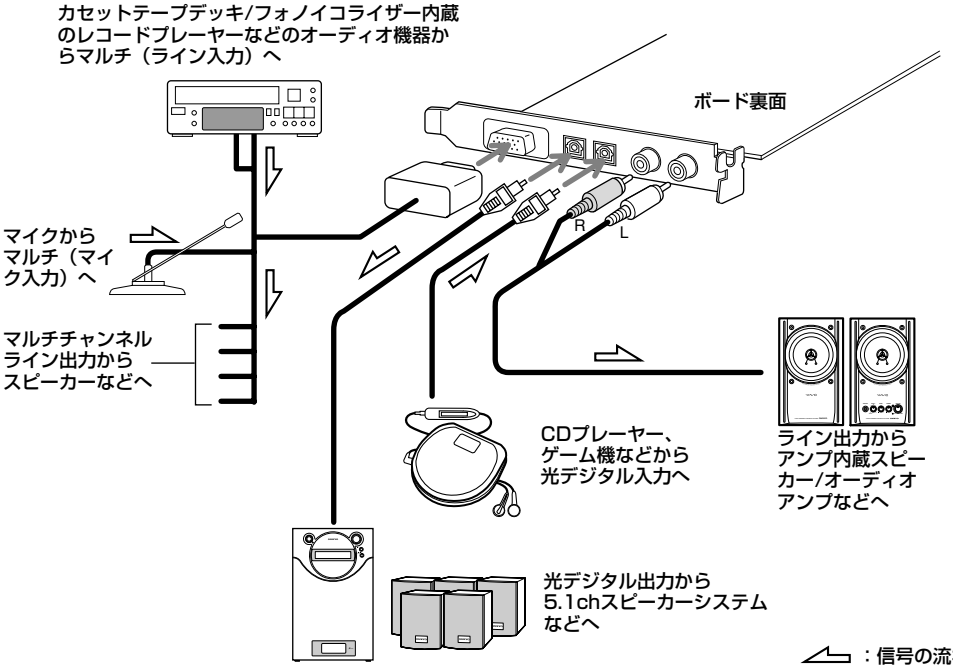
〈接続する前に〉

- オーディオ用ピンコードは、次のように接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

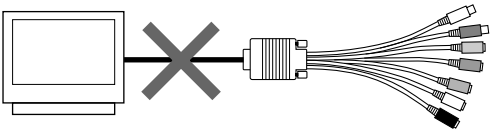


■ オーディオ機器との接続例



ご注意

マルチ入出力コードとPCのディスプレイ接続用コネクタは接続しないでください。



ドライバのインストール

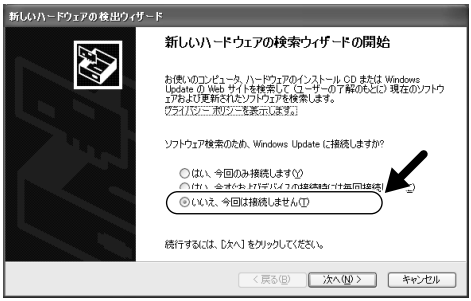
OSのバージョンによって表示される画面構成や文字が違う場合があります。

■ ドライバのインストール（Windows XPの場合）

ご注意

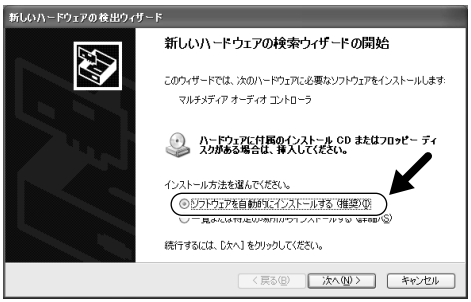
インストール作業を開始する前に必ずPCの電源が切れていることを確認してください。

1. パソコンの電源がOFF状態であることを確認して、SE-200PCIをPCIの空いているスロットに差し込みます。（8～9ページをご覧ください）
2. SE-200PCIが確実にパソコンに取り付けられていることを確認した上で、パソコンの電源をONにしてください。
3. パソコンを起動した際にSE-200PCIが検出され、デバイスドライバウィザードが表示されます。
4. ［いいえ、今回は接続しません］を選択して［次へ］をクリックします。



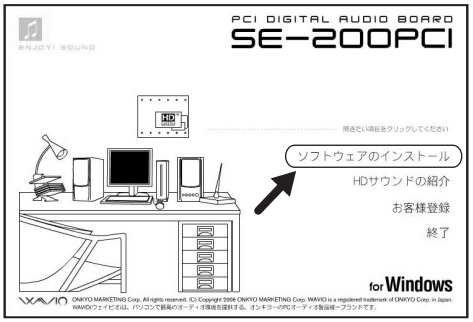
5. 次の画面で［ソフトウェアを自動的にインストールする］が選択されているのを確認した上で、［次へ］をクリックして、最後に［完了］をクリックしてください。

   WindowsXP SP2をご利用の場合は、SE-200PCIが検出されますと、［ソフトウェア検出のため、Windows Updateに接続しますか］の画面が表示されます。
   その場合は、［いいえ、今回は接続しません］を選択し、[次へ]をクリックします。



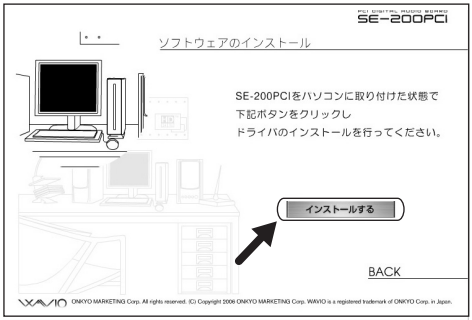
6. パソコンのCD-ROMドライブにSE-200PCIのインストールCD-ROMを挿入してください。

   画面が現れるまで少しお待ちください。画面が現れないときは、CD-ROMドライブのアイコンをダブルクリックしてください。
7. ［ソフトウェアのインストール］をクリックします。

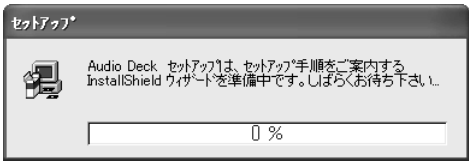


ドライバのインストール

8. ［インストールする］をクリックします



9. しばらく待つとセットアップがスタートします。



10.［ようこそ］画面が表示されますので内容を確認した上で、［次へ］をクリックしてください。

11.［コンポーネントの選択］の画面が表示されます。

［Envy24 Family Audio Device Driverのインストール］が選択されていることを確認して［次へ］をクリックしてください。

ドライバのインストール

12.［インストール先の選択］画面が表示されます。

インストール先を指定した上で［次へ］をクリックしてください。特に指定がない場合はこのまま［次へ］をクリックしてください。

13.ドライバがインストールされます。

14.［セットアップの完了］画面が表示されます。

［はい、直ちにコンピュータを再起動します。］が選択されていることを確認し、［完了］をクリックしてパソコンを再起動します。

15.以上でデバイスドライバのインストールは終了です。

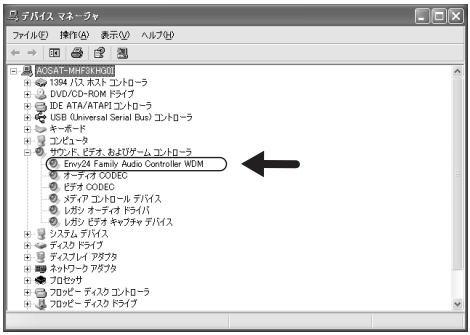
ドライバのインストール

■ デバイスドライバインストールの確認

デバイスドライバのインストール後、［デバイスマネージャ］から次のデバイス名が正常に表示していることを確認してください。デバイスマネージャは［コントロールパネル］→［パフォーマンスとメンテナンス］を開き、［システム］をクリックします。［システムのプロパティ］画面の［ハードウェア］タブから［デバイスマネージャ］ボタンをクリックします。

サウンド、ビデオ、およびゲーム コントローラ

- Envy24 Family Audio Controller WDM



♪ヒント

OSのバージョンによって表示される画面構成や文字が違う場合があります。

Windows 2000の場合は、[設定]→[コントロールパネル]→[システム]を開き、[ハードウェア]タブから［デバイスマネージャ］ボタンをクリックします。

■ オーディオデバイスの確認

［コントロールパネル］→［サウンド、音声、およびオーディオデバイス］を開き、［サウンドとオーディオデバイス］をクリックします。サウンドとオーディオデバイスのプロパティ画面で、［オーディオ］タブをクリックします。
音の再生の既定デバイス・録音の既定デバイスが［Envy24 Family Audio（WDM）］になっていることを確認してください。

♪ヒント

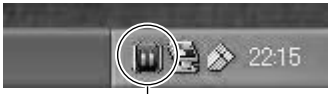
OSのバージョンによって表示される画面構成や文字が違う場合があります。

Windows 2000の場合は、［コントロールパネル］→［サウンドとマルチメディア］を開き、［オーディオ］タブを選択します。

オーディオコントロールパネル(Audio Deck)の使い方

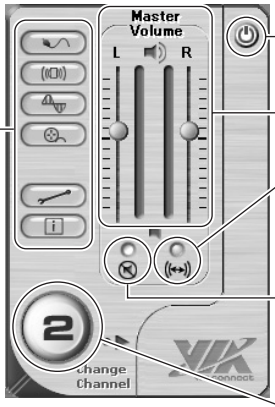
■ オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の起動

WindowsXPの通知領域（タスクトレイ）上のオーディオコントロールアイコンをクリックして起動します。
または、［スタート］→［すべてのプログラム］→［Audio Deck］→［Audio Deck］を選択して起動させることもできます。



オーディオコントロールアイコン

■ オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使い方



クリックするとパネルを閉じます

マスターボリューム*
全体の音量を調整します

フェーダーリンク*
左右のボリュームが同期して上下に移動します。クリックしてボタンを消灯させると、左右別々で音量を調整することができます。

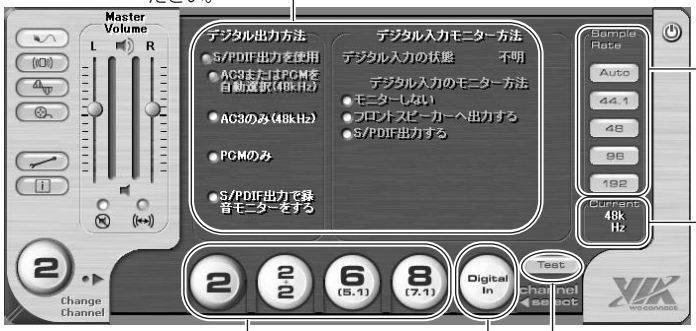
ミュート*
全体の音声を消音にします。
クリックしてボタンを点灯させると有効となります。

***2ch専用のライン出力には機能しません。**

スピーカーのチャンネル数が表示されます

パネル切り替えボタン
パネル切り替えボタンをクリックすると各メニューが表示されます。

各メニューが表示されます
S/PDIFコントロールパネル、スピーカーパネル、再生パネル、録音パネル、拡張設定パネル、サウンドエフェクトパネル、システム情報パネルがあります。16〜23ページをご覧ください。



デジタル出力のサンプリングレートを切り換えます

再生しているサンプリングレートを表示します。
デジタル入力を選んでいるときはDigital Inと表示されます。

スピーカーのチャンネル数を切り換えます

デジタル入力に切り換えます

テスト音を出力してスピーカーの接続状況を確認することができます

オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使い方

■ デジタル入出力の設定をする（S/PDIFコントロールパネル）

S/PDIFコントロールボタンをクリックしてパネルを開きます。［S/PDIFコントロール］パネルでは、デジタル出力の方法とデジタル入力のモニター方法などを設定します。

S/PDIFコントロールボタンをクリックする

●［デジタル出力方法］を設定する

1. デジタル出力の有無

S/PDIF出力を使用

再生時、デジタルアウト端子から再生を行うときにチェックをつけます。チェックをはずすとデジタル出力されません。

2. デジタル出力信号の種類を選ぶ

AC3またはPCMを自動選択（48kHz）

光デジタルアウト端子から出力する音声の形式（AC3またはPCM）を自動選択して出力します。出力される音声のサンプリング周波数は［48kHz］固定となります。インストール時の設定です。

AC3のみ（48kHz）

AC3形式の音声のみ光デジタルアウト端子から出力します。出力される音声のサンプリング周波数は［48kHz］固定となります。

PCMのみ

WAVEなどのPCM音声のみ出力します。パネル右部のSample Rateから任意のサンプリングレートを選択することができます。
音楽を再生中に選択を切り替えた場合、変更を有効にするために、一旦再生を停止してから再度再生をおこなってください。Sample Rateは［AUTO］［44.1］［48］［96］［192］から選択ができます。

S/PDIF出力で録音モニターをする

マルチ入出力コードのライン入力端子からアナログ入力した音声をデジタルアウト端子からデジタル出力しモニターする場合に選択します。

オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使い方

● ［デジタル入力モニター方法］ を設定する

1. デジタル入力に切り換える
再生している場合は停止し、必ず再生アプリケーションを閉じてから、Digital Inボタンをクリックしてください。（再生アプリケーションを閉じないでクリックした場合には、エラーメッセージが表示されます。）

2. デジタル入力の状態を確認する

デジタル入力の状態
デジタル音声信号の入力の状態が表示されます。デジタル音声信号が入力されていない場合は［不明］と表示され、デジタル音声信号が正しく入力されている場合は［Locked］と表示されます。

3. デジタル入力のモニター方法を設定する

モニターしない
デジタル入力した音声をモニターしない場合に選択します。

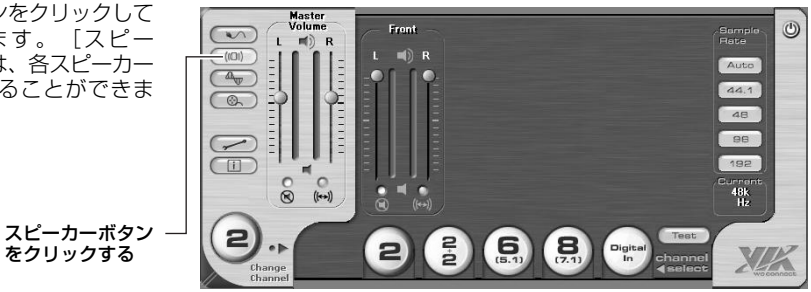
フロントスピーカーへ出力する
デジタル入力された音声をマルチ入出力コードのフロントスピーカーへアナログ出力しモニターすることができます。インストール時の設定は有効となっています。

S/PDIF出力する
デジタル入力された音声を光デジタルアウト端子からデジタル出力してモニターすることができます。

オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使い方

■ マルチチャンネルスピーカーのボリュームを調整する（スピーカーパネル）

スピーカーボタンをクリックしてパネルを開きます。［スピーカー］パネルでは、各スピーカーの音量を調整することができます。



2チャンネル出力時

1. スピーカーのチャンネル数を設定する

マルチ入出力コードのスピーカー出力に4ch以上接続している場合はパネル下部の丸いボタンから接続しているスピーカーの数にあったボタンを選んでクリックしてください。選択されたスピーカーの数に応じた画面に切り替わります。

2. 各スピーカーの音量を調整する

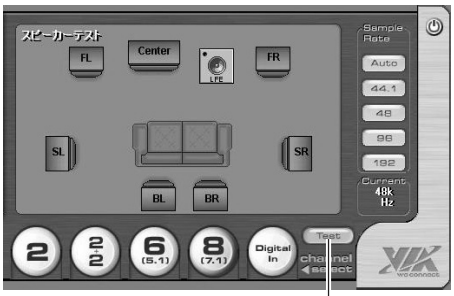
ボリュームフェーダー
各スピーカーの音量を調整します。

ミュート
各スピーカーの音声を消音にします。クリックしてボタンを点灯させると有効となります。もう一度クリックするとチェックが外れ、音が出ます。

フェーダーリンク
各スピーカーの左右のボリュームが同期して上下に移動します。
クリックしてボタンを消灯させると、左右別々で音量を調整することができます。

● スピーカーの接続状況を確認する（スピーカーテスト）（アナログマルチチャンネル出力用です）

［スピーカーテスト］パネルは下部の［Test］ボタンをクリックします。このパネルでは接続されているアナログマルチチャンネル出力の各スピーカーのサウンドのチェックを行います。サウンドチェックを行いたいスピーカーをクリックしてください。選択したスピーカーのアイコンが点灯している間に選択したスピーカーからテスト音が出力されます。



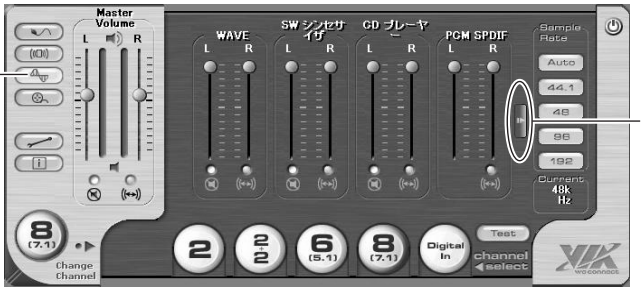
ご注意

- サウンドチェックの前に［拡張設定］の［ステレオエキスパンダー］機能を無効にしてください。
- デジタル出力からはテスト音は出力されません。

オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使い方

■ パソコンから出力される音声ボリュームを調整する（再生パネル）

再生ボタンをクリックしてパネルを開きます。
［再生］パネルではパソコンから出力される各音声のボリュームを調整できます。



● **ボリュームフェーダー**
各音量を調整します。

● **ミュート**
各音声を消音にします。クリックしてボタンを点灯させると有効となります。

♪ヒント

より良い音で聴くために再生時はMonitor RecIn枠内のミュートにチェックをつけてください。
（Monitor RecInは、右端の矢印をクリックすると表示されます。）
インストール時の設定ではミュートの状態になっています。

● **フェーダーリンク**
各音声の左右のボリュームが同期して上下に移動します。
クリックしてボタンを消灯させると、左右別々で音量を調整することができます。

オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使い方

■ 外部機器と接続して録音を行う（録音パネル）

録音ボタンをクリックしてパネルを開きます。［録音］パネルでは、外部機器からの入力をパソコンのハードディスクに録音する場合に、入力を切り換えたり、入力レベルを調整することができます。

録音ボタンをクリックする

● アナログ入力を録音する時は

パネル下側のスピーカーチャンネル数ボタンをクリックしてください。

1. **録音入力選択**

パソコンに入力するアナログ音声を切り替えます。

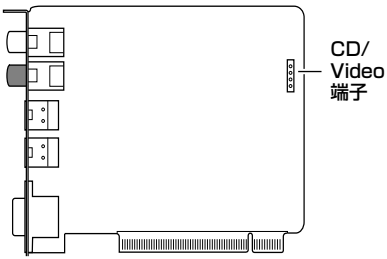
♪ヒント

より良い音で聴くために再生時はLine-Inに設定することをお勧めします。

Input Mix	Mic、Line-In、CD/Videoの入力のすべてを有効にします。
Mic	マイク入力のみを有効にします。
Line-In	マルチ入出力コードのライン入力のみを有効にします。
CD/Video	SE-200PCIのボード上に内部接続された入力のみを有効にします。

♪ヒント

TVキャプチャカードなどの音声信号を内部接続する場合は、右図を参照してSE-200PCIのボード上のCD/Video端子に接続してください。



ご注意

Line-Inなど他のアナログ入力と同様にCD/Video入力も、2ch専用のライン出力からは音声出力されません。これらの音声はマルチ入出力コードのフロントL/R出力をご利用ください。（30ページ参照）

2. **Line-In（入力レベル）**

録音入力選択で選択された入力音声の入力レベルを調整します。

♪ヒント

より良い音で聴くために再生時は入力レベルを一番下に設定してください。

● デジタル入力を録音する時は

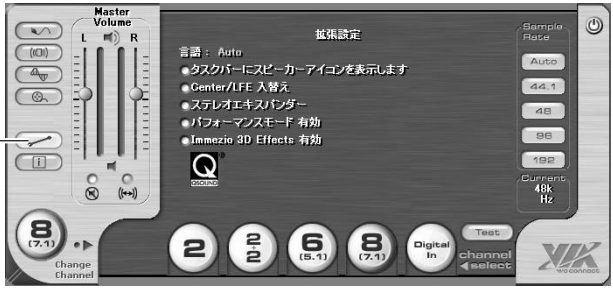
デジタル入力選択

パネル下部のDigital Inボタンをクリックしてください。
デジタル入力端子に接続されている外部機器のボリュームレベルが表示されます。
このときは特に設定する項目はありません。

オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使い方

■ 拡張設定を使用する（拡張設定パネル）

拡張設定ボタンをクリックしてパネルを開きます。
［拡張設定］パネルでは、オーディオコントロールパネルの表示言語を変えたり、さまざまなサラウンド効果やイコライザー機能を付加して再生することができます。



拡張設定ボタンをクリックする

- **言語**
  オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の各設定表示の言語を選択します。
  インストール時の設定は［Auto］です。

- **タスクバーにスピーカーアイコンを表示します**
  タスクバーにMicrosoftスピーカーアイコンを表示する場合は有効にします。

- **Center/LFE 入替え**
  マルチ入出力コードの黒（センターおよびサブウーファー出力）の接続端子は左チャンネルにセンタースピーカー、右チャンネルにサブウーファーが割り当てられています。この設定を有効にすると、出力を反転させて、左チャンネルにサブウーファー、右チャンネルにセンタースピーカーを割り当てることができます。センタースピーカーとサブウーファーの音に違和感を感じたときは設定してみてください。

- **ステレオエキスパンダー**
  マルチチャンネル出力接続をしている場合、ステレオ2チャンネルの音声を擬似的に4チャンネル以上のマルチチャンネルに割り振って再生することができます。この機能を使用するときは、一旦再生を停止し、設定を有効にしてから再生を始めてください。

- **パフォーマンスモード有効**
  再生時のMaster Volumeレベルや各スピーカーのレベルインジケータ表示を停止します。

- **Immezio 3D Effects有効**
  Immezio 3DのQSoundおよびEAX・A3Dなどのサラウンド効果を使用する場合は［Immezio 3D Effects有効］をクリックします。この設定を有効にするにはシステムの再起動が必要です。再起動した後、パネルの左部分に［サウンドエフェクト］ボタンが追加表示されます。Immezio 3DのQSoundの各設定については次のページをご覧ください。

Immezio 3D Effectsを有効にする前に、必ず他のオーディオデバイスを無効にしてください

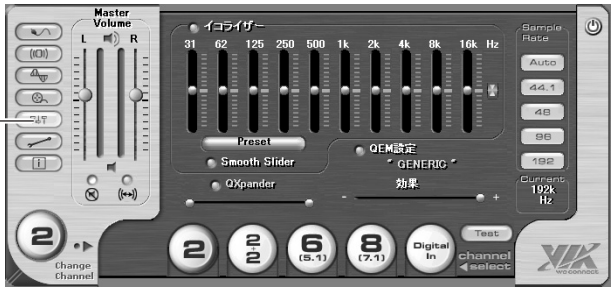
Immezio 3D Effectを有効にするためには、［Envy24 Family Audio (WDM)］以外の オーディオデバイスを無効にする必要があります。 14ページの「オーディオデバイスの確認」で ［規定のデバイス］に他の選択肢がある場合は、［デバイスマネージャ］でそのオーディオデバイスを無効にしてください。別紙の「取り扱い上のご注意」もご覧ください。

オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使い方

QSoundは、Immezio 3Dの機能です。

■ QSoundを使用する（サウンドエフェクトパネル）

サウンドエフェクトボタンをクリックしてパネルを開きます。（サウンドエフェクトボタンを表示させるには、21ページをご覧になって拡張設定パネルで、［Immezio 3D Effects有効］をクリックして再起動してください。）
［サウンドエフェクト］パネルでは［QSound］を利用してさまざまなサウンド効果やイコライザー機能を付加して再生することができます。



スピーカーボタンをクリックする

● **イコライザー**

イコライザー機能を使用します。［イコライザー］ボタンをクリックして、イコライザーボタンを点灯させ、各周波数のスライダーを上下して調整してください。イコライザーを使用しない場合はイコライザーボタンをクリックしてボタンを消灯させてください。

Smooth Slider

周波数のスライダーを上下した際に、その周辺のバンドも同期して上下させることができます。Smooth Sliderは［イコライザー］が有効になっている場合にのみ表示されます。

Presetボタン

あらかじめプリセットされているイコライザー設定（Techno、Jazz、Pop、Classic）を呼び出すことができます。また、自分で設定したイコライザーの状態を保存することもできます。

● **QEM設定**

残響効果を設定します。有効にするには、QEM設定ボタンをクリックしてボタンを点灯させてください。残響効果の種類を選び、スライダーで効果の強さを設定することができます。

● **QXpander**

2chスピーカーで3次元的な広がり感を付加させることができます。有効にするには、QXpanderボタンをクリックしてボタンを点灯させてください。下段のスライダーで効果の大きさを調整することができます。

オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使い方

■ システム情報を確認する（システム情報パネル）

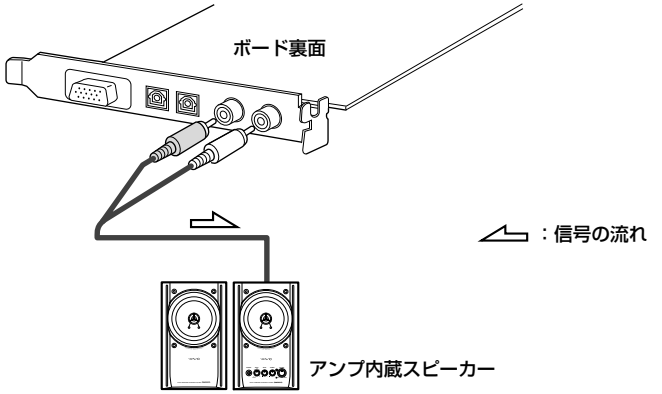
システム情報ボタンをクリックしてパネルを開きます。
ドライバやWindowsなどのバージョン情報が表示されます。

システム情報ボタンをクリック

再生のしかた

■ パソコンの音声をアンプ内蔵のPC用スピーカーで再生する（ライン出力）

1. PCスピーカーを図のようにSE-200PCI本体に接続します。



2. ボリュームコントロールを開き、再生したい音声の［ミュート］のチェックボックスにチェックが入っていないか確認し、入っている場合はチェックを外してください。

   お使いのパソコン環境によっては、ミキサーコントロール等の名前の場合もあります。

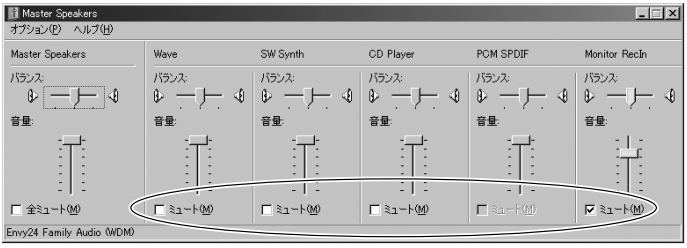
＜ボリュームコントロールの開き方＞

Windows XPの場合

1. ［スタート］→［コントロールパネル］を選択します。
2. ［サウンド、音声、およびオーディオデバイス］をクリックします。
3. コントロールパネルの［サウンドとオーディオデバイス］をクリックします。
4. ［サウンドとオーディオデバイスのプロパティ］ウィンドウで、［オーディオ］タブを選択します。
5. ［音の再生］の［音量］ボタンを押します。

Windows 2000の場合

1. ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］→［サウンドとマルチメディア］を開きます。
2. ［オーディオ］タブを選択します。
3. ［音の再生］の［音量］ボタンを押します。

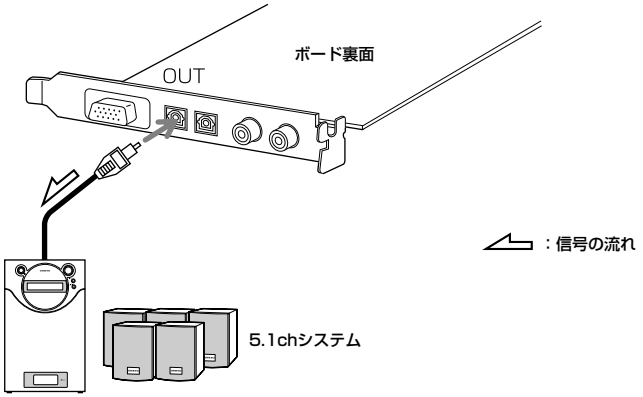


3. Windowsに付属の「Windows Media Player」などで音声を再生します。

再生のしかた

■ パソコンの音声をマルチチャンネルデジタルホームシアターシステムで再生する

1. マルチチャンネルシステムを図のようにSE-200PCI本体に接続します。



2. DVDプレーヤーソフトなどで音声を再生します。

ご注意

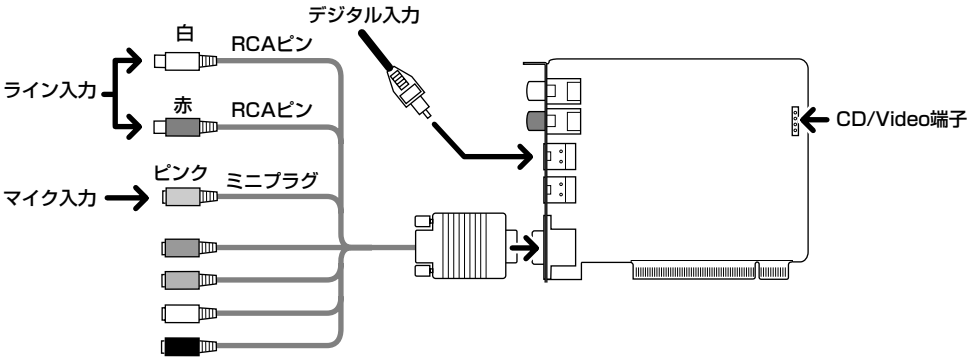
Windows 2000 Professionalでマルチチャンネルデジタルの再生をおこなう場合は、SP3以降がインストールされている必要があります。

録音のしかた

■ 外部入力をパソコンのハードディスクに録音する

アナログ/デジタル接続した外部入力をパソコンのハードディスクに録音することができます。

1. 録音したい外部機器を接続する



2. Audio Deckを起動して、録音パネルで入力を設定する

詳しい設定内容は20ページをご覧ください。

アナログ入力の場合

① ［Digital In］以外の丸いボタンをクリックして、［録音入力選択］と［Line-In］を表示させます。
② ［録音入力選択］で、録音するアナログ音声を切り換えます。Input Mix、Mic、Line-In、CD/Videoから選ぶことができます。
③ ［Line-In］で入力レベルを設定します。

デジタル入力の場合

① ［Digital In］ボタンをクリックします。
② ボリュームレベルが動いていることを確認してください。

3. サウンドレコーダーを起動する

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［サウンドレコーダー］で起動します。
サウンドレコーダーでは、音声を様々なフォーマット、ビットレートでPCに録音することができます。
詳しくは、Windows付属のドキュメントまたはヘルプを参照ください。

♪ヒント

サウンドレコーダーでは、約1分程度の音声をWAVE形式のファイルで録音できます。他の形式での録音や、さらに長い時間での録音を行う場合は、別途サウンド録音のソフトウェアをご用意ください。

4. Soundのプロパティ画面を表示する

サウンドレコーダーの［ファイル］メニューから［プロパティ］を選択します。

5. サウンドの選択画面で録音の設定をする

Soundのプロパティ画面で［変換］ボタンを押し、サウンドの選択画面を表示します。［形式］で録音したいオーディオフォーマットを選択、［属性］でサンプリングレートなどを選択し、［OK］をクリックします。

6. 録音を開始する

サウンドレコーダーの録音ボタンを押すと録音が開始されます。同時に録音したい音源の再生を行ってください。

ヒント

- 録音レベルの調節は、直接入力しているソースの入力レベルを調節してください。
- ライン入力からの録音中に［ボリュームコントロール］および［録音コントロール］の音量を動かすと、録音レベルが変化しますので、動かさないでください。

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません

故障かな？と思ったら

正常に動作しないときは、この表を参考にしてお調べください。これらの処理をしても直らないときやこれ以外の症状のときは、「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（SE-200PCI）」「故障状況」をできるだけ詳しく、お買い上げ販売店、またはお近くのオンキヨー修理窓口までご連絡ください。

症状	原因	処置
デバイスを認識しない。	• 接続が不完全。	• 8～9ページを参考に、オーディオボードが確実にPCに接続されているか、確認してください。
	• その他のデバイスとIRQなどのリソースが競合している。	• ボードを取り付けるPCIスロットの位置を変更、または利用していないオンボードデバイスをBIOSから無効に設定をしてください。
音声が出ない。	• ミュートされている。	• Windowsのタスクバーにあるスピーカーのアイコンを右クリックして「音量の調節」パネルを開き、ミュートのチェックをはずしてください。
	• 出力レベルが小さい。	• Windowsのタスクバーにあるスピーカーのアイコンを右クリックして「音量の調節」パネルを開き、各音声出力のレベルを適正な値に調整してください。
	• 他の音声出力デバイスが使用されている。	• コントロールパネルにある「マルチメディアのプロパティ」を開き、「再生」の「優先するデバイス」から本製品を選択してください。それでも出力されない場合は、「優先するデバイスのみ使用する」のチェックボックスにチェックを入れてください。
	• 外部アンプあるいはスピーカーに問題がある。	• ラインアウト端子から外部アンプやスピーカーに確実に接続されているかどうか確認してください。その際、ケーブルに問題がないか併せてご確認ください。また、外部アンプやスピーカーの電源やボリュームを確認してください。
	• 入出力端子が正しく接続・設定されていない。	• 30ページの表をご覧になり、正しく接続・設定してください。
左右の音量バランスがかたよっている。	• バランスが中央に設定されていない。	• Windowsのタスクバーにあるスピーカーのアイコンを右クリックして「音量の調節」パネルを開き、バランススライドバーで調整してください。
	• 外部アンプあるいはスピーカーに問題がある。	• 外部アンプやスピーカーのバランスを確認してください。

故障かな？と思ったら

症状	原因	処置
5.1chデジタル出力ができない。	• 使用しているソフトがSE-200PCIでのデジタル出力に対応していない。	• SE-200PCIの仕様はデジタル出力に対応しています。対応確認済みDVDプレーヤーソフトの最新情報は当社ホームページをご確認ください。 • ドライバのバージョンやOSによって対応状況が異なります。詳細は当社ホームページをご確認ください。
	• Windows 2000 Professionalで、Service Pack 3以降のインストールがされていない。	• Service Pack 3以降をインストールしてください。
ライン音声が入力できない。	• ライン入力の接続が不完全。	• 外部からライン入力に確実に接続してください。
	• 外部機器から音声が出力されていない。	• 外部機器から音声が出力されているかどうか確認してください。
音が途切れる。	• 音声出力や入力中に、負荷のかかる作業をしている。 • CPUの処理が再生に追いついていない。	• 録音等をされる場合には、CPUに負荷のかかる作業は控えてください。 • CPUが推奨スペックを満たしていない場合は期待した性能を発揮できない場合があります。また、CPUが推奨スペックを満たしている場合でもCPUが非常に高負荷の状態である場合は音が途切れることがあります。この場合は他のアプリケーションをすべて終了してください。
	• DVD再生時、グラフィックカードのハードウェア再生支援機能を持っているPCで、機能が動作していない。	• DVDプレーヤーソフト側でハードウェア再生支援機能を有効にしてください。
雑音が多い。	• テレビなど、強い磁気を帯びたものの近くに置いている。 • 各入出力端子の接続が不完全。 • 外部スピーカーに問題がある。	• テレビなどから十分に離して置いてください。 • 10ページを参照して確実に接続してください。 • 接続するスピーカーの製造元にお問い合わせください。
CD-ROMドライブからの音声が出力されない。	• CD-ROMドライブがデジタル音声出力に対応していない。	• システムがCD-ROMドライブからのデジタル音声ストリームに対応していない場合、ドライブから出力された音声は出力されません。このような場合は、CD-ROMドライブの音声出力（ヘッドホン出力等）をライン入力に接続し、音量を適当な値に調節してください。
TVキャプチャカードのボリュームが連動しない。	• SE-200PCIの仕様によるものです。	• オーディオコントロールパネル（Audio Deck）のマスターボリュームとTVキャプチャソフト側のソフトウェアボリュームとを連動させることは仕様上できません。

製品の故障により、正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDのレンタル料等）については保証対象になりませんので、大事な録音をされるときには、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

主な仕様

接続方式： PCIバス（PCI ver. 2.1以上）

デジタル入力サンプリング周波数： 32kHz/44.1kHz/48kHz/88.2kHz/96kHz

デジタル出力サンプリング周波数： 32kHz/44.1kHz/48kHz/88.2kHz/96kHz/176.4kHz/192kHz

周波数特性： 0.3Hz ～ 88kHz（+0/−3dB, ライン出力）

0.3Hz ～ 20kHz（+0/−0.5dB, マルチ出力）

SN比： 115dB（A-フィルタ, ライン出力）

全高調波歪率： 0.003%（1kHz, 0dB）

ライン出力レベル： 2.0Vrms

マイク入力感度： 100 mV(rms)

音声入力：	デジタル	DIGITAL IN×1（光）
	アナログ	ANALOG IN×2（ステレオRCA, 内部接続）
	マイク	MIC IN×1（Φ3.5mm/モノラル）
音声出力：	デジタル	DIGITAL OUT×1（光）
	アナログ	2ch ANALOG OUT×1（ステレオRCA）
	マルチチャンネルプリアウト	7.1ch ANALOG OUT（Front L/R, Center, Surround L/R, Surround Back L/R）
	サブウーファープリアウト	7.1ch ANALOG OUT（Subwoofer）

外形寸法（幅×高さ×奥行）： 22×121×163 mm

質量： 180g

仕様および外観は、性能向上のため予告なく変更することがあります。

◎本製品の入力と出力の関係は以下のとおりです。

出力 / 入力	2ch専用ライン出力	マルチ出力（フロントL/R出力）	マルチ出力（フロントL/R出力以外）	デジタルアウト
PC音声	○	○	○（設定要）(1)	○（設定要）(2)
LINE	×	○	×	○（設定要）(3)
マイク	×	○	×	○（設定要）(3)
CD/VIDEO	×	○	×	○（設定要）(3)
デジタルイン	×	○（設定要）(4)	×	○（設定要）(5)

○：対応しています　×：対応していません

（1）［拡張設定］で［ステレオエキスパンダー］をONにしてください。
（2）［S/PDIFコントロールパネル］の［デジタル出力方法］で［S/PDIF出力を使用］を有効にしてください。
（3）［S/PDIFコントロールパネル］の［デジタル出力方法］で［S/PDIF出力で録音モニターをする］を有効にしてください。
（4）［S/PDIFコントロールパネル］の［デジタル入力モニター方法］で［フロントスピーカーへ出力する］を有効にしてください。
（5）［S/PDIFコントロールパネル］の［デジタル入力モニター方法］で［S/PDIF出力する］を有効にしてください。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　SE-200PCI
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

お客様ご相談窓口

電話でのお問い合わせ：

オンキヨーコールセンター
ご購入相談、機能・取り扱い相談窓口

電話番号 ： 050-3161-9555
- 受付時間 ： 月～金曜日　9:30 ～ 17:30
（土・日・祝日・弊社の定める休業日を除きます）

メールフォームによるお問い合わせ：
http://www.jp.onkyo.com/ から
オンキヨーホームページを開く
↓
▶ サービス・サポートをクリック
↓
「メール（フォーム）によるお問い合わせ」の「PC周辺機器に関するご購入相談・機能取扱」をクリックしてください。

製品に関する最新情報などは：
ホームページアドレス
http://www.jp.onkyo.com/
http://www.jp.onkyo.com/wavio/
をご参照ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： 年 月 日

ご購入店名：

Tel. ( )

メモ：

オンキヨーマーケティング株式会社

販売元　大阪府寝屋川市日新町1-13　〒572-0028

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/
http://www.jp.onkyo.com/wavio/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間　9：30～17：30
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）

Printed in Japan
D0611-1

SN 29344222

(C) Copyright 2006 ONKYO CORPORATION Japan. All rights reserved.

* 2 9 3 4 4 2 2 2 *